



(題字は 田中八尾市長)

発行所
八尾市消防団
発行責任者
八尾市消防団長
向井正雄
八尾市高美町5-3-4
TEL(072)992-0119
FAX(072)992-7722
刊行物番号 H29-206

平成30年消防出初式



消防出初式

平成30年1月8日(月・祝)、新春の初頭に際し、大阪府中部広域防災拠点で挙行予定でしたが、天候不良のため、同施設の荷捌き場(屋内)において消防出初式を挙行し、消防職員及び消防団員の士気を鼓舞するとともに、防火・防災に対する決意を新たに致しました。

屋内での挙行は過去の例としては少なく、今年は式典のみでしたが、消防職員による「通常点検」が行われ、消防職員の職務遂行に必要な姿勢や服装について点検を実施するもので、田中市長をはじめ来賓者の方々が見守る中、規律正しく行われており、私自身も初めて目にしました。

また、閉式後は、雨上がりの屋外において、披露予定であった南東方面隊の規律訓練が行われました。毎年恒例の分列行進や一斉放水等で勇姿を披露出来ませんでした。通常点検や規律訓練を見て改めて身が引き締まる思いで今後の消防団活動に取り組んでいくと決意を新たにしたい一日となりました。

◆(龍華分団 中東 正行)

災害への備えと新たな一歩



団長 向井 正雄

団員の皆様には、一年を通じて昼夜を問わず、地域の防火防災活動にご尽力していただき、心から感謝申し上げます。

昨年一年を振り返りますと、風水害による被害が全国各地で発生し、八尾市内においても10月の台風第21号の影響により、長く続いた降雨で山手地区に土砂災害警戒情報による避難指示の発令、大正地区の大和川では、水位上昇による避難勧告が発令されるなど、多くの市民が避難所に避難されました。

幸いにも大きな被害はなく、これらの警戒活動に従事していただいた高安・南高安・大正の各分団の皆様、ご苦労様でした。

また、近い将来の発生が危惧されている南海トラフ地震など、災害に立ち向かうには、防災への強

い意識と心構えが大切であります。

常日頃から、地域住民との連携強化を図り自助、共助の助力となるよう団員が一丸となって邁進していくことが必要となります。

また、大災害時での活動を安全かつ、組織的に行うために震災活動マニュアルを改定いたします。

このマニュアルは、消防団全体を対象とした基本行動であるため、各分団において、その地域の特性や組織構成などの実情を踏まえ分団内において対策、方針等を検討していただき団員ひとり一人が情報を共有することで最大限の消防力を発揮できるものと考えます。

平成30年度、八尾市は市制施行70周年を迎え、同時に中核市へと移行し、消防としても自治体消防制度70周年の記念すべき年であり、八尾市消防団も条例定員を290名に改正するとともに女性分団を創設し新たな一歩がスタートします。今後も災害に強いまちづくりを目指し、市民の安全、安心を守る消防体制に努めていく所存であります。団員の皆様には、引き続き地域防災の要としてご尽力いただきますようお願い申し上げます。



大阪府消防表彰受章

平成30年3月17日(土)、平成29年度大阪府消防表彰式が行われ、本市からも大阪府知事表彰をはじめとして、多くの団員が栄えある表彰を受章しました。

【大阪府知事表彰】

○消防勤続功労章

団本部 副団長 松村康正

○消防功労章

曙川分団 分団長 瀧口好之

南高安分団 分団長 川崎義正

志紀分団 副分団長 笹井伸彦

【日本消防協会会長表彰】

○精績章

団本部 副団長 岸 孝

【大阪府消防協会会長表彰】

○永年勤続章

西郡分団 分団長 内山 正

志紀分団 副分団長 吉内直之

○勤続章

大正分団 分団長 乾 和仁

大正分団 副分団長 松本 徹

大正分団 副分団長 木田宗利

山本分団 副分団長 堤下富彦

志紀分団 副分団長 山科雅一

○勤功章

八尾分団 副分団長 中村佳照

龍華分団 副分団長 廣岡 勝



曙川分団	副分団長	織田和彦
南高安分団	副分団長	長峰宏輔
南高安分団	副分団長	松村吉富
山本分団	副分団長	竹下健一
曙川分団	部 長	藤井善文
○精勤章	副分団長	清水大輔
高安分団	部 長	中家一真
龍華分団	部 長	坂本敦浩
南高安分団	部 長	中川元丞
南高安分団	部 長	錦織栄夫
高安分団	部 長	稲本篤彦
曙川分団	部 長	杉田昌己
大正分団	部 長	梅田洋生
曙川分団	部 長	杉原弘恭
南高安分団	部 長	松下雄治
山本分団	部 長	林 晋弘
山本分団	部 長	福田大祐
志紀分団	部 長	中辻勝俊
志紀分団	部 長	楠 一郎

消防団・職員合同
ポンプ操法大会



平成29年10月29日(日)、ぽつぽつと降り始める雨の中、大阪府中部広域防災拠点にて、第2回消防団・職員合同ポンプ操法大会が行われました。

この大会は、消防団員と消防署員が合同で消火・救出活動を行い、迅速確実な動きとその速さを競います。

北東方面隊からは、山本分団東山本分隊、山本分団混成(上尾・上之島・福万寺)分隊の2隊が参加しました。

総合タイムの短縮、操法中の動作、器具の取り扱い等による減点をいかに取られないように行うかが重要で、雨による足元の滑りやポンプ車から火点までのホースの延長による放水圧力がタイムに影響を与えるため、失敗が許されない緊張感の中での訓練でした。

操法大会の結果、総合タイムと減点ポイントが最も少なかった北東方面隊山本分団混成分隊と2課山本小隊のチームが優勝しました。消防団・職員合同

参加出場隊

- ・北東方面隊と1課高安小隊
- ・北西方面隊と1課亀井小隊
- ・北東方面隊と2課山本小隊(優勝)
- ・南西方面隊と2課志紀小隊(準優勝)



◆(山本分団 塚尾 誠一)

歳末警戒パトロール



平成29年12月29日(金)30日(土)の2日間にわたり、歳末特別警戒を実施しました。

団長をはじめ団幹部より激励の言葉を頂き、身の引き締まる思いで歳末警戒を実施しました。また、ポンプ車での警戒パトロールのほか、徒歩での火災予防等の注意喚起を行い、地域住民に思いを届けることができ、何よりも良かったと感じるとともに、今後も、より一層地域住民と連携協力し、地域防災に役立てられたらと考えております。

◆(西郡分団 棚田 秀行)

まちづくり協議会訓練



平成29年11月26日(日)、まちづくり協議会主催の防災訓練が八尾市立高安小・中学校で行われ、地域住民とともに高安分団が参加しました。

訓練は、煙中体験やガレキ撤去等による救出訓練、水消火器による初期消火訓練の他、AEDを使用した心肺蘇生法等を行いました。また、プールの水を水源に行われた可搬ポンプによる放水訓練では、児童達もポンプの取扱い操作を体験しました。

今回の訓練では、多くの児童を含め地域住民が防災組織の重要性を認識してくれたものと思います。

◆(高安分団 増田 卓司)

現場指揮課程



平成29年11月19日(日)、大阪府立消防学校において現場指揮課程を高安分団の野口副分団長と共に受講しました。

午前中、災害時情報・伝達の講義では、九州北部豪雨の土砂災害現場において視察報告の説明を受け、午後からの実技では、馴れない土のう袋を作製し水防訓練を実施、様々な工法、水害発生箇所における使用工法の選択等、学ぶところが多く充実した内容でした。

実災害での水防活動は訓練と違い、雨中、夜間など悪い状況下になる事が容易に想像でき、水防活動の困難さと、それらを指揮する指揮者の重要性を感じました。

◆(久宝寺分団 吉川 明憲)

機関科課程

平成29年11月12日(日)、大阪府立消防学校において機関科の研修が行われました。

大阪府下から総勢81名の団員が集まり、八尾市消防団からは、南高安分団の馬谷団員と共に使命を背負い、意識を高め教育訓練に取り組みました。

午前中は、モリタポンプの講師によるポンプ自動車の基礎知識を学び、午後からは、消防学校教官により屋外訓練場においてポンプ自動車を運用しての揚水及び放水訓練を実施しました。

今回訓練に参加し、他市の団員と共に消防精神を学び、今後、高安分団も分団長を中心に一枚岩となって地域に貢献していきます。



◆(高安分団 五枝 伸浩)

分団指揮課程



平成30年1月21日(日)、大阪府立消防学校において分団指揮課程を南高安分団の松村副分団長と共に受講しました。

昭和時代の消防士の心構えとして、「筒先は死んでも離すな」、「現場での怪我は勲章だ」、これぞ火消し魂という熱い心構えであった。

しかし、今後、南海トラフ大地震が想定される平成では、昭和の安全管理意識とは違い、「消防隊員自らが傷つき倒れたのでは、災害活動を遂行することはできない」、「安全確認無くして災害活動はあり得ない」とされている。

今回の受講により、いかに消防組織が安全を意識しているかが良く理解できたため、責任者として、団員達に安全管理を徹底させ事故等が無いように努めたいと思います。

◆(八尾分団 鈴木 卓也)

亀井地区自主防災訓練

平成29年12月10日(日)、亀井小学校区地区集会所において亀井地区町会自主防災組織と地域住民、消防団、消防職員と合同で防災訓練を実施しました。

内容は担架を作製し負傷者の搬送訓練、消火器の使用方法、地域住民によるバケツリレー等様々な訓練が行われ、地域住民ひとり一人が、防災の知識を習得できました。

短い時間でしたが消防団・消防職員の交流ができ繋がりが強くなり、大災害が発生した際には連携して地域を守り続けていく事を大切に、日々の活動に努めてまいります。



◆(龍華分団 西川 尊之)

規律訓練



平成29年10月2日(月)、南東方面隊の規律訓練の激励会を実施していただきました。

この日から南東方面隊による規律訓練が開始され、平成30年1月8日(月・祝)の消防出初式までの約3か月間、毎週2回の計20回におよぶ訓練が始まりました。

初めは、基本動作である「気を付け」、「整列休め」等の各個訓練を反復し叩き込まれ、手、指先の開き、つま先の角度といった本当に頭からつま先まで神経を行き渡らせるといった基本が出来ていないことを痛感しました。

その後、行進間の訓練が始まると、思う様に皆との呼吸が合わず、これで本当に本番を迎えられるのかと不安になりました。

しかし、訓練を重ねるにつれ、呼吸も合うようになり、自信もついてきました。

最後には、皆が「絶対に成功させる」と、気持ちを一つにして訓練に臨めていました。

出初式当日は、あいにくの天候でしたが、日ごろの訓練以上の成果を出すことができ、声援をくださった各分団の方々にも南東方面隊の気迫のこもった規律訓練を披露することができたと思います。



◆(曙川分団 乾 智之)

南高安分団中部分隊竣工式



平成30年2月11日(日)、南高安分団中部分隊消防機械器具置場(屯所)の竣工式が挙行されました。天候にも恵まれ、田中市長をはじめ、竹田市議会議長、消防団幹部、消防本部幹部、区長、南高安分団OB等多数出席していただき盛大に執り行われました。

新屯所は、鉄骨造2階建、建65㎡、延129㎡の立派な建物で、1階は消防車2台が駐車できるスペー

スがあり、2階は全体が待機室となつていきます。

また、併せてホース乾燥用ポールや地域住民に災害等を知らせるトランペットスピーカー等も新設され、今までは違った新しい屯所が誕生しました。

今後は、地域防災を担う消防団として火災をはじめ、災害が発生した際には、地域住民を守るための新たな活動拠点となります。

これからも地域住民が安心して暮らせるよう、消防団活動に取り組んでいきたいと思えます。



◆(南高安分団 北本 晃史)

秋季消防総合訓練



平成29年11月15日(水)、八尾市立大正コミュニティセンターで秋季火災予防運動行事の一環として消防総合訓練が実施されました。訓練には、消防署・消防団の8台60名と大正出張所の職員4名が参加し大正コミュニティセンター2階料理実習室から出火、数名の来館者が取り残されているという想定で大正出張所職員による通報及び避難誘導訓練の後、消防署と消防団が連携し実践的な救出、消火活動訓練が展開されました。消防団は救助隊の屋内進入時の援護注水を行い、その後、火勢制圧を想定した一斉放水訓練を行いました。

このような実災害を想定した訓練を行うにあたり、木田副分団長以下4名が迅速確実な動作を重点に活動しました。



◆(大正分団 森口 正明)

厚生事業ボウリング大会

平成29年10月1日(日)、ボウリングアロー八尾店において、田中市長参加のもと、八尾市消防団厚生事業として、第25回ボウリング大会が行われました。

毎年、多数の参加者が熱戦を繰り広げるこの大会、今回も169名の

団員が参加し、大会を盛り上げてくれました。

あまり接する事のない各分団の団員と交流を深め、また、大会を通して各分団が一丸となつて競い合うことができ、この様な厚生事業も大切であると実感し、今後も参加したいと思いました。

なお、結果は次の通りです。

個人戦優勝 志紀分団 山倉団員
団体戦優勝 久宝寺分団



◆(八尾分団 影中 義和)

若なる会親睦旅行

平成30年2月3日(土)、4日(日)、消防団幹部(若なる会)の親睦として、長野県白骨温泉と飛騨高山へ行ってきました。

1日目、昼食は飛騨高山市内にある飛騨牛料理店「鳩屋」で食事をとりました。

雪の影響で、白骨温泉の手前では、バスにチェーンを巻かなければホテルに着くことができないうらいの雪でした。

白船グランドホテルへチェックインした後、早速、白濁源泉かけ流し露天風呂に浸かり疲れを癒しました。

また、夜の懇親会では、他の分団長、方面隊長の方々と親睦を深め、楽しい時間を過ごすことができました。

2日目は、飛騨高山で古い町並みを散策しながら、宮川朝市などでお土産を買い込み帰路につきました。

体も気持ちもリフレッシュできた2日間でした。



◆(志紀分団 森脇 和信)

全国女性消防団員活性化大会

平成29年11月16日(木)、広島グリーンアリーナにて第23回全国女性消防団員活性化広島大会が開催されました。

活性化大会に参加するのは、佐賀大会、北海道大会に続き、今回の広島大会で3回目になります。

全国の消防団活動紹介コーナーでは25団体の展示があり、大阪府からは、高槻市、枚方市、泉大津市がさまざまな消防団活動を紹介されており大変参考になりました。

また、啓発グッズでは、自治体のキャラクターを折り紙で折り、配布物の絆創膏に添え工夫されており、思わず手に取ってみたくなるものでした。

記念講演では、広島東洋カープの新井貴浩さんのプライベートな話を和やかな雰囲気の中、聞くことができました。

翌日は、平成26年8月の豪雨被災地である広島市安佐南区の土砂災害場所へ視察のため向かいました。

安佐南地区は、広島市内より車で30分の距離にあたるところで、神立や恩智地区の雰囲気と似てい

ました。

安佐南消防署員の案内で建設中の砂防ダムや当時の状況、救助活動の説明をしていただきましたが、今でも大きな石が転がり、アスファルトが剥がれているなど、当時の傷跡が今も残っていました。

今回、活性化大会に参加できたことで、全国の女性団員の方々の交流や貴重な体験ができて私自身の良い刺激となり、スキルアップしないといけないと感じました。この経験を団員の仲間と共有し、今後の活動に役立てたいと思います。



◆(団本部 中谷 美和子)

中河内防災フェアに参加

平成29年11月25日(土)、久宝寺緑地にて中河内防災フェアが開催されました。

消防・警察・自衛隊の他、各関係機関が水消火器体験や非常食の炊き出し訓練等を行う中、私達は東大阪市女性団員と共に、バルーンアートをを用いた防火啓発及びAEDを使用した応急手当講習を行いました。子供からお年寄りまで大勢の人で賑わいました。

バルーンアートは、大阪経済法科大学の消防支援ボランティア(学生消防隊・通称SAFETY)にも協力してもらい、通りがかった子供達からは、「ピカチュウが欲しい」や「リラックマが欲しい」等と沢山のリクエストもあり大人気でした。

救命講習では、参加された方が熱心に受講され、「胸骨圧迫は思っていたよりしんどい、実際に体験できて良かった」等の声をいただき、また、東大阪市女性団員は、アンパンマンマーチのリズムに合わせて子供達に胸骨圧迫を教えており、子供達にも分かりやすく工夫されていてとてもいい勉強にな

りました。

防災フェアでは、参加された皆さんに喜んでいただくことができ、とてもやりがいのある有意義な1日でした。

自分自身、応急手当指導員としてまだまだ経験不足で、マニュアル通りにしか教えることができませんが、自分の言葉で皆さんに教えることが出来るよう、これからも経験を積んでいきたいと思えます。



◆(団本部 小山 友梨子)



